

平成24年度 患者満足度調査の実施結果について

当院では、患者さんの率直な声をお聞きして、より良い医療サービスを提供することを目的とした『患者満足度調査』を年1回実施させていただいております。昨年度は、11月に、入院・外来の患者さんを対象にアンケート調査を行ないました。調査期間中は多くの患者さんにご協力をいただき、ありがとうございました。以下に調査結果の一部をご紹介します。

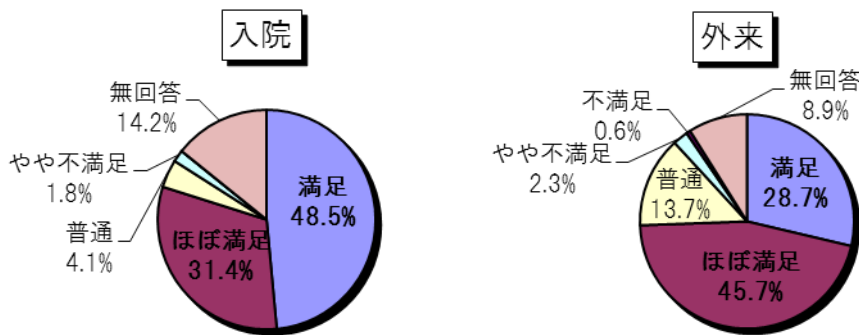


◎調査概要

区分	実施期間	回収状況
入院	平成24年11月5日(月)～18日(日)14日間	169枚(183枚配布、回収率92.3%)
外来	平成24年11月7日(水)、8日(木)2日間	481枚(492枚配布、回収率97.8%)

◎調査結果(抜粋)

○「全体として、この病院に満足していますか？」



入院で79.9%、外来で74.4%の患者さんから、「満足・ほぼ満足」の回答をいただきました。

昨年度と比較すると、入院で9.1ポイント増、外来で19.6ポイント増となり、患者さんの満足度が増した結果となりました。

○「職員の対応はていねいでしたか？」

区分	十分	ほぼ十分	ふつう	やや不十分	不十分	該当しない 無回答	
入院	医師	65.7%	21.9%	8.9%	0.0%	0.0%	3.6%
	看護師	60.9%	29.0%	4.7%	0.6%	0.0%	4.7%
外来	医師	44.5%	24.9%	15.2%	1.0%	0.8%	13.5%
	看護師	40.1%	26.6%	16.0%	0.4%	0.2%	16.6%
	受付	39.1%	27.2%	19.5%	1.0%	0.4%	12.7%

入院で、医師87.6%、看護師89.9%、外来で、医師69.4%、看護師66.7%、受付66.3%の患者さんから、「十分・ほぼ十分」の回答をいただきました。

○「待ち時間をどう感じましたか？(予約時間から診察時まで)」

区分	短い	やや短い	ふつう	やや長い	長い	無回答
医師	15.6%	4.8%	26.0%	17.7%	14.8%	21.2%

「長い・やや長い」と感じた患者さんが、32.5%いらっしゃいました。

◎アンケートの結果は、医師、看護師、事務等、各部門で確認し、サービス改善に取り組んでいます。今後とも、患者さんに満足していただける病院を目指し、サービス向上に努めてまいります。

♪ お問い合わせ先 庶務課企画係 ♪
♪ ご希望の方はご自由にお持ちください。 ♪

今月の医療

～こんな治療・検査をご存じですか～

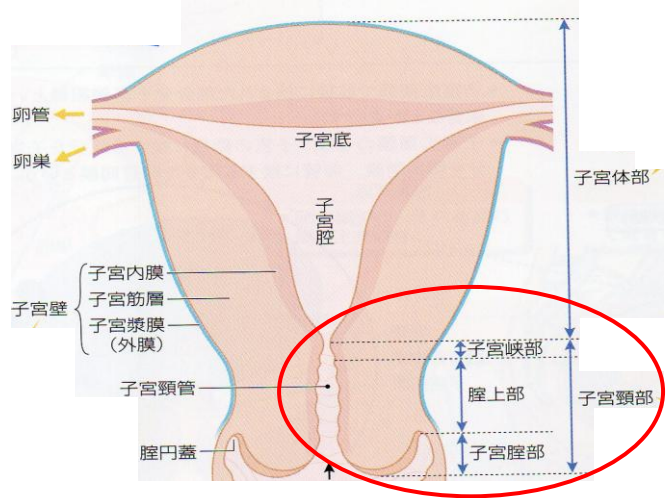
しきゅうけい

【子宮頸がんとは？とヒトパピローマウイルス感染(HPV)について -

婦人科 -】

子宮頸がんとは？

子宮の出口付近にある**子宮頸部**から発生するがんで、**20代後半から40代前半にかけてよく発症し、多くは不正出血や接触出血**で見つかります。子宮頸がんには、子宮粘膜を覆った扁平上皮にできる**扁平上皮がん**と頸管粘膜を分泌する腺組織にできる**腺がん**の2種類があり、罹患する確率は**それぞれ80%と20%**と言われております。この子宮頸がんの原因には、**100%近い確率でヒトパピローマウイルス(HPV)が関与しています。**



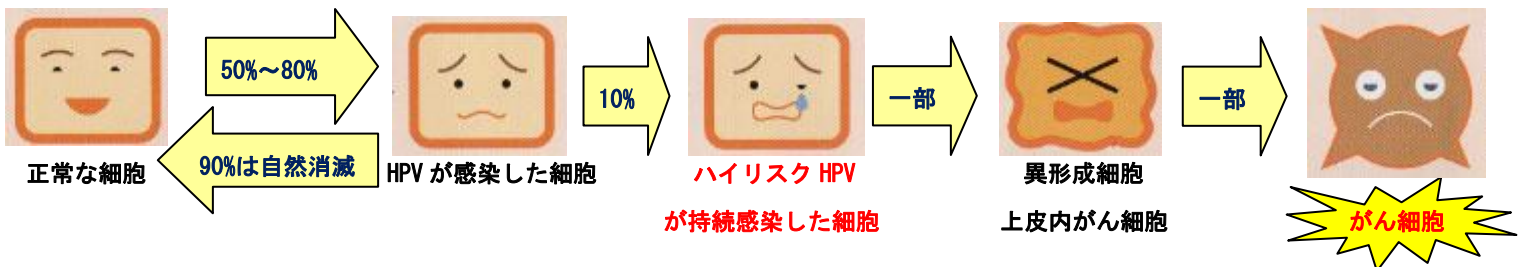
ヒトパピローマウイルス(HPV)とは？

乳頭腫といういぼを形成するパピローマウイルスの中で、ヒトにのみ感染するウイルスで、現在100種類以上の型が知られています。その感染部位から、**皮膚型(約8種類)**と**粘膜・性器型(約20種類)**に分けられます。さらに、癌との関連の深さをもとに、**ハイリスク型(16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型)**と、**ローリスク型(6, 11型)**に分類されます。

ヒトパピローマウイルス(HPV)感染から、子宮頸がん発症までは？

ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染経路は接触感染で、ほとんどが**性行為によって感染**と言われております。しかし、HPVに感染した人のうち、子宮頸がんを発症する確率は**0.1%(1000人に1人)に満たない**と言われております。ではどのような条件が重なれば、子宮頸がんが発症するのでしょうか。子宮頸がんを発症させるのは、HPVの中でも、**ハイリスク型の感染を受けた場合**です。さらにそのハイリスク型のウイルスが、子宮頸部で持続感染を続けた時のみ、子宮頸がんへ移行していくのです。ヒトパピローマウイルス(HPV)に感染してから子宮頸がんが発症するまでには、**5~10年の年月を要する**と言われております。

《HPV感染から子宮頸がんへ進行する過程》



子宮頸がんの治療は？

積水メディカル株式会社より転

子宮頸がんは、異形成という細胞の段階から、さらに上皮内がんという初期のがんを経たのちに発症します。進行したがんの場合は、子宮を摘出しなくてはなりません。が、**上皮内がんまでは子宮を摘出することなく、子宮頸部の一部のみを円錐形に切除する(円錐切除術)ことで、ほぼ完治することができ、その後に妊娠・出産も行うことができます。**従って、たとえ頸がんが発症したとしても、**初期の段階で見つかるように、検診を受けることがとても大切だ**と思います。

婦人科医長：三田 俊二

☆当院は紹介予約制の医療機関のため、まずかかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。